

小学4年 教科 国語 クラスの「不思議ずかん」を作ろう

柏市立富勢小学校 中山 友紀

1 自己調整を意識した授業づくり

(1) 進める上でのポイント・ねらい・身に付けたい力

この単元では、児童が学校の身近な物に興味を持ち、図鑑に載せたいと思ったものについて、自分なりの問いをもって調べる活動を行い、集めた情報を比べたり分けたりして整理し、伝えたいことをはっきりさせることをねらいとして、図鑑作りを行う。

【進める上でのポイント】

- ①学校内や学校生活の身近な物、かつ **Sagasokka** に載っている物にテーマを絞る。また、教師が用意したインターネットサイトや図書、関係する人へのインタビューを中心とした取材（情報収集）に限定する。
- ②コラボノートを活用することで、児童がいつでも相互参照や相互評価できる環境を整え、協働的な学びの場を用意する。
- ③**Google** スプレッドシートを活用して、学習の計画、ふり返しを行い、自己調整を促す。
- ④テーマの設定と組み立て表については、教師（学校図書館指導員・地域ボランティアさん）チェックを設ける。
- ⑤取材や組み立て表を作成する際は、情報収集や話し合いがしやすいように、図書館と隣にあるラーニングコモンズで学習する。
- ⑥不思議ずかんプロジェクトを立ち上げ、児童と一緒にどんな図鑑を作りたいかなど、授業の計画を一緒に検討する。（不思議探しの旅、図鑑を読んでもらいたい人、図鑑をどうまとめるか。紙媒体は図書館に置く。 **Google** サイトでデジタル図鑑を作成し、**URL** や二次元コードで限定公開。）

(2) 単元計画

	時	・学習内容 ○身に付けたい力
1 課題の設定	1	・単元の学習の流れや目的を共有し、見通しをもつ。 ・ずかんにのせたい物のテーマを決める。 ○単元の見通しをもちおおよその計画を立てることができる。 ○自分なりの問いを見つけることができる。
2 情報の収集	2 3	・テーマについて取材する。 ・学校内にあるものは実物を観察したり写真を撮ったりする。 ・ Sagasokka や関連図書を使って調べ、メモをする。 ○情報の比較分類の仕方、必要な言葉などを書いて残すやり方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し、使うことができる。
3 整理・分析	4 本 時	・写真やメモをもとに、組み立て表を作り、先生（ボランティア）に説明する。 ○集めた情報を比べたり分けたり整理して、伝えたいことをはっきりさせることができる。
4 まとめ・表現	5	・図鑑の原稿を書き、読み返す。

	6	○写真や文章でわかりやすく表現することができる。
5ふり返り・改善	7	・グループで発表し合い、感想を伝える。 ○友達や自分の文章のよいところを見つけることができる。

(3) 本時のポイント (4/7)

【児童主体の授業とするための準備・環境】

- ・ Google スプレッドシートを活用して学習計画を立てる時間を設け、今日やること、誰と学ぶか、ループリックを選択できるようにする。
- ・ 学習場所を図書館やラーニングコモンズ（円卓がある環境）にすることで、話しやすい空間を用意し、必要に応じて取材（情報収集）に戻れる環境にした。

【これまで支援してきたこと】

- ・ 総合的な学習や社会科など、他の教科でも探究のサイクルを意識した学習過程をスライド等で示してきた。
- ・ 国語や社会科の学習を通して、調べ学習のやり方（千葉県の産業のようす、リーフレットでほうこく）や、写真の撮り方（写真から読み取る）などを指導してきた。
- ・ 学び方を学ぶ意識を高めるため、○つけレベル表や学ぶときに大切な考え方などを掲示したり、「何を学ぶか」「誰と学ぶか」「どこで学ぶか」などの理由も考えるように促してきた。

【支援のポイント】

- ・ 組み立て表を作成した後、先生（学校図書館指導員・地域ボランティア等）に説明する場面を設けることで、伝えたいことがはっきりとしているかどうかを確認する。

【本時で設定したレベル】

子供へ委ねる段階	1	2	3	4
課題	教師が課題を決める	子供に選択肢から選ばせる	子供が選択肢をつくり、選ぶ	子供が自分で課題を決める
過程	教師が意識して過程を回す	過程の一部を子供が回す	ほぼ子供の意思決定で過程を回す	全て子供の意思決定で過程を回す
形態（個別・協働）	教師が誰とどう学ぶかを決める	過程の一部で誰とどう学ぶかを子供が決める	過程のほぼ全てで誰とどう学ぶかを子供が決める	全ての過程で誰とどう学ぶかを子供が決める
ツール	教師が何をを使うか決める	子供に選択肢から選ばせる	ほぼ子供が自分で使うツールを決める	子供が自分でツールを決める
空間	教師が学びの空間を決める	子供に選択肢から選ばせる	ほぼ子供が自分で学ぶ空間を決める	子供が自分で学ぶ空間を決める
ペース	全員同じペースで学ぶ	一部学びたいペースで学ぶ	子供がほぼ学びたいペースで学ぶ	子供が学びたいペースで学ぶ

2 実践の流れ

1 ずかんにのせるものを決める

- 不思議探しの旅に出る（写真）
- 学校にあるものを選ぶ
 - ①植物、②道具・せつび
 - ③文ぼう具
- イメージマップで不思議を集める
- Sagasokka（百科事典）にのっている（用意したサイト、本、インタビュー）



課題の設定

2 テーマについて取材する

- 実物の写真を撮る（不思議が伝わる写真）
- 気づいたことや思ったことをメモする
- Sagasokkaで調べる
- 必要なところをぬき出しメモする
- Sagasokka以外のメディアでも調べる
本、インタビュー、サイト
- 学研キッズネット、トンボKIDS
- 出典は必ずメモする



情報の収集

3 組み立て表を作り、説明する

- 1 写真の説明
 - 2 書き出し（写真・場所）の説明
 - 3 テーマやむずかしい言葉の説明
 - 4 不思議の説明
 - 5 一言メッセージ
- ⇒ 先生（ボランティアさん）に説明してみよう！
- 【児童の変容】



整理・分析

4 ずかんの原稿を書き、読み返す

📌 ここが大事 5つのチェックリスト（P66）

- 1 題名を工夫している
- 2 書き出しを工夫している
- 3 読む人を考えた言葉づかいになっている
ていねいな言葉・低学年がわかる漢字
- 4 むずかしい言葉の説明がある
- 5 写真や図を効果的に使っている
（写真からも不思議が伝わる）

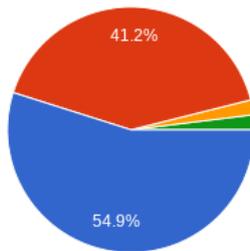
まとめ・表現

ふり返りアンケートから

1 Sagasokkaを使って調べ学習をすることができましたか。

[グラフをコピー](#)

51 件の回答

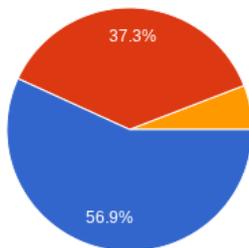


- とてもあてはまる
- あてはまる
- あてはまらない
- まったくあてはまらない

2 出典（使った資料のサイトのアドレスや、本の題名・出版社・発行年）を正しくのせることはできましたか。

[グラフをコピー](#)

51 件の回答

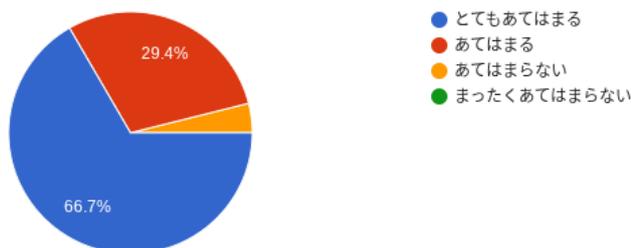


- とてもあてはまる
- あてはまる
- あてはまらない
- まったくあてはまらない

3 Sagasokkaだけでなく、先生が用意したサイトや本などの情報から、必要な情報を集めることができましたか。

📄 グラフをコピー

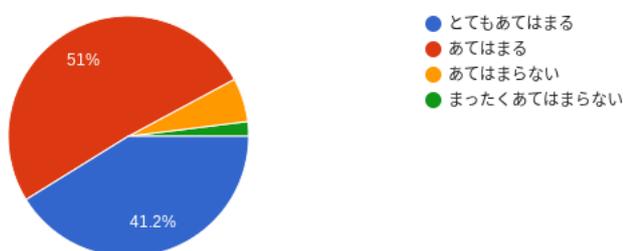
51件の回答



4 整理した情報（組み立て表）をもとに、くふうしてまとめることができましたか。

📄 グラフをコピー

51件の回答



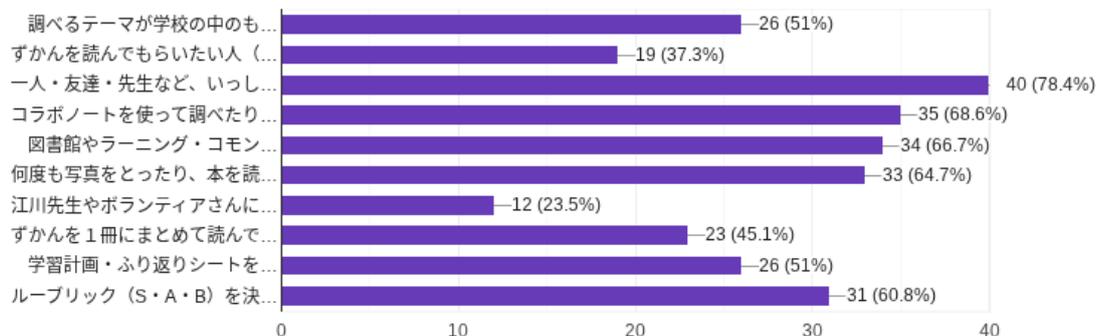
出典を正しく載せることや、『Sagasokka』だけでなく多様な情報源から必要な情報を集めることにおいて、多くの児童が「とてもあてはまる」「あてはまる」を選択しており、正しく情報収集することと複数の資料から必要な情報を取り出すことに対する意識が高まったといえる。また、整理した情報をもとに工夫してまとめる力も多くの児童が身についたと感じている。

課題は、情報収集をした後の表現の質と伝える際の工夫の仕方を挙げる児童が多く、児童同士で図鑑を読みあった際に、他の児童の工夫された表現等を自分の図鑑と比べて気付いたものと考えられる。図鑑を読みあった後に、自分の図鑑を手直しする時間を確保することが、必要な手立てであったと考えられる。

5 今回の学習でよかったと思うことにチェックをしましょう。（いくつチェックしてもOKです。）

📄 グラフをコピー

51件の回答



5 今回の学習でよかったと思うことにチェックをしましょう。(いくつチェックしてもOKです。)

- 調べるテーマが学校の中のものに限定（げんてい）したこと
- ずかんを読んでもらいたい人（富勢小児童とボランティアさん）を決めたこと
- 一人・友達・先生など、いっしょに学ぶ相手を自由に選べたこと
- コラボノートを使って調べたり、原稿をつくったりしたこと
- 図書館やラーニング・コモンズを使って学習できたこと
- 何度も写真をとったり、本を読んだりなど取材にもどれたこと
- 江川先生やボランティアさんに説明を聞いてもらったこと
- ずかんを1冊にまとめて読んでもらえること（紙・デジタル）
- 学習計画・ふり返りシートを記入したこと
- ルーブリック（S・A・B）を決めて取り組んだこと

【成果と課題】

今回の単元では、想定していた時間内に全員が原稿を完成させることができ、B以上を達成した。

単元の振り返りアンケートでどんな力がついたかを聞いてみると、「読む相手のことを思って書く力」「分かりやすい文章を書く力」などの表現力、「サイトや本を使って調べ情報を集める力」「調べた情報を整理し、分かりやすく構成する力」「タイピングなどのデジタルツールを扱うスキル」が身についたという意見が多く見られた。このような記述から、多くの児童が目標に向かって学びを進めている様子が見えられた。

反対に、改善点を問う質問には、「もっと読み手を意識した文章にしたかった」「もっと不思議についてくわしく説明したかった」「写真を工夫してわかりやすい図鑑にしたかった」など、前向きな振り返りが多かった。この振り返りを踏まえた教師側の改善点として、もう少し時数を増やした単元にしてもよかったと感じた。

また、今回の単元の学習環境に関して、児童がよかったと感じていることとして、「一緒に学ぶ相手を自由に選べたこと」「コラボノートを使って学習できたこと」「図書館やラーニングコモンズを使って学習できたこと」「何度も写真を撮ったり、本を読んだり取材に戻れたこと」「ルーブリックを決めて取り組んだこと」を挙げた児童が6割～8割近くいた。

【実践を終えて】

- ・どの教科でも、子どもの意見やアイデアを取り入れた単元計画や、探究的な学習のプロセスを意識した授業づくりを心がけてきた。子どもも学習計画を立てたり見通しをもったりすることで、自己の学びを調整するようなふり返りができるようになってきた。
- ・単元全体のデザインをする時に、身につけたい資質・能力を明確にすることで、どのような学習活動が必要なのかを考えてルーブリックに落とし込むことが、自由進度的な学習でも放任にならない大事な手立てであると感じた。